REINANZAKA SCOUT CLUB

スカウトＯＢ・ＯＧの情報交換や交流の場／２００１年1月27日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内　107-0052　東京都港区赤坂1-14-3　電話：03-3583-0403

霊南坂スカウトクラブ総会開催のお知らせ

２月１８日（日）スカウト・サンデー礼拝と総会

来る２月18日（日）例年どおりスカウトサンデー礼拝と霊南坂スカウトクラブの総会が開かれますので、できるだけ多くの方々のご出席をお願いします。

また、当日こども達へのプレゼントとして、「楽器とお話」があります。弦楽器、管楽器などこども達に古典音楽といろいろな楽器に興味を持つようにと、成城学園大学レストロ・アルモンコ管弦楽団の方々に演奏とお話をしていただくことになっています。

当日の予定をお知らせいたします。都合のよい時間からご参加ください。

●２月18日（日）

10：15～
　スカウト・サンデー礼拝

12：00～
　昼食会（300円程度）

13：00～
　音楽会　成城学園大学レストロ・アルモンコ管弦楽団の演奏とお話

14：15～
　スカウト・クラブ総会

ＢＳ、ＧＳのリーダーからの活動報告、今年度の事業報告および来年度の事業計画承認やその他の事柄を話し合います。会員登録をされた方々をはじめ、まだ入会されていないＯＢ・ＯＧの方々も是非ご参加いただき、入会ください。

サンタクロース現る？！

2000年12月9日午後7時神谷町の永利菜館（森ビル40）に衣装を着たら、まさにサンタクロースの遠山兼宏さんをはじめとして、ＯＢ・ＯＧ、現役リーダーやスカウトの保護者の方々と共に参加者42名楽しく賑やかな時を過ごしました。

まずは、「他己紹介」同じ色の鶴の折り紙を取った者同士がお互いを参加している皆さんに紹介するもの。

「ビンゴ・ゲーム」沢山のご寄付などにより成立。すご～く大き

なクマのぬいぐるみを孫（数日後に誕生）へのおみやげができたと大喜びの人もいました。

「ハンドベル・コンサート」ＧＳリーダーにより、集会後に練習時間僅か45分でしたがクリスマスソングのメドレーを演奏。あらら…ちょっと音が…というところもありましたが、一致協力、努力のかいあって参加者一同より暖かい拍手を受けました。

その他、同じテーブルに座った肩との歓談、老若男女、昔のこと、今のこと、いろいろなお話ができました。

今回の会場は、ＯＢの朱さんのご両親の中華料理のお店でした。地下（１階の中華料理店とは階段で繋がっている）では朱さんが「エリー」という喫茶店をしています。営団地下鉄の神谷町駅改札から外に出ずにそのままいけますので、お近くにお出かけの時はお寄りください。♣

日本ガールスカウト運動

８０周年記念レセプション

アダルト　西郷　尚子

昨2000年は、日本にガールスカウト運動が発足して正に80周年の節目の年でありました。

ご承知のように、1910年イギリスに誕生したガールガイド運動は、その後間も無い1919年に香蘭女学校に赴任した一人の教師によって日本に紹介されました。

まだ、20歳代であったイギリス人教師ミス・M・グリーンストリートがガイダーでもあったことは、今思えば大変幸せなことでありました。

というのは、翌1920年にはイギリスガイド連盟の一支部としてではありましたが、日本に初めて女子のための社会教育運動が発足し、日本のガールスカウト運動の礎を築くこととなったからです。

戦後、1948年に最初の文部省主催青少年指導者講習会では、ガールスカウト・アメリカ連盟の一人であるミス・テュウイも講師の一人として迎えられ、４団の初代リーダーである小崎朝子（現・芹野）さんも講習を受けています。

日本連盟では、この80周年を期して、「明日を創るガールスカウト運動」を標語として掲げ、組織改革から教育内容の改定に至るさまざまな事業を数年に亘って実施しました。その成果は、50年ぶりの「やくそくとおきて」の改定、テンダーフット部門（小学校就学前１年の少女）の導入、新しい教育プログラムの実施など、さまざまな形で発表され始めています。

80周年記念事業のひとつとして改装工事を了えた戸隠ガールスカウトセンターは少女と若いリーダーの手によって再開され、無事に次の世代へと引き継がれました。そして、これまでの80年をつなぎ、支援し、発展させてくださった会員内外の多勢の方々への感謝の機会として計画されたのが、この記念レセプションです。

2000年10月28日（土）有楽町の東京国際フォーラムでの会には、文部大臣官房白川哲久審議官をはじめ、助成団体や青少年団体、協力団体からの来賓を多数お迎えし、各県支部の支部長や代表、日本連盟役員や委員が参席しました。折よく、来日中の世界連盟のアジア太平洋地域委員会副委員長のトレイシー・ピープルズさんには、講演をお願いすることができました。（彼女は滞在中に「是非、ガールスカウト達に会いたい」といわれ、当日午前中、霊南坂？？で受け入れていただいて心から楽しまれました。）

ガールスカウト達のコーラルスピキングで幕を開けたレセプションは、終始和やかな雰囲気農地に進行しました。トレーシー・ピープルさんの講演は、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟の使命声明をもとに「女性団体としての世界連盟の意識」について話され、青年による青少年のための活動であることを忘れないように訴えられたことは大変印象的でした。（彼女は数年前まで世界連盟の青年委員会委員であり、二人目のお子さんを持たれるのも間近ということでした）

また、来賓の一人として杉原正

さんが、その祝辞の中で「スカウト活動は子供が主役」と述べられたことも心に残りました。この会の実行委員会の中に塚田洋子さんと矢澤宏子さんを迎えることができたのは、事業の円滑な実施のためには何より力強いことであり、ご尽力に心からお礼を申し上げます。

これからのガールスカウト活動がますます発展し、少女たちが健やかに伸びやかに育まれることを願って止みません。

<<西郷さんのプロフィール>>

第4団の三代目のリーダーで、1995年4月～2000年8月31日までの5年6ヶ月を日本連盟の事務局長として活躍されました。尚、お母様の国行妙子さんは四代目の支部長でした。

連載（3）

「古美術商って何？！」

永山　茂樹

六古窯について

今回は、六古窯についてお話ししたいと思います。六古窯と言うのは、瀬戸・常滑・越前・信楽・丹波・備前をまとめて呼ぶときに使われる言葉です。それでは、一つずつ説明していきます。

①【瀬戸】瀬戸古窯は愛知県の瀬戸市とその周辺を含めての広大な地域にまたがる陶郷です。平安時代末期から鎌倉時代の初期にかけての製品は、中国南方系の宋磁の影響を受けた器形の四耳壺・瓶子・水注・花瓶・大平鉢・合子等が多産されていました。これらは、灰釉で釉薬が薄く、釉流れには濃淡の釉縞が現れるという特長があります。

ついで鎌倉時代の後期から室町時代にかけて、前代のものの崩れが窺われてくるのと併行して、古瀬戸釉とも呼ばれる鉄褐釉が多用されてきました。そして、茶入・天目茶碗といった作品が現れて来ます。さらに室町時代が下降するに従って瀬戸の窯業も衰退し、次第に窯業の中心は隣の美濃に移り、また別の一部は他地方に移動するという現象が見られました。

②【常滑】常滑は平安時代に始まり、鎌倉時代・南北朝・室町時代と盛隆を極め、主として壷・甕など膨大な生産量があったと考えられますが、概して素土が悪く精良な作品が乏しい感じがします。その多くの作品は、海上輸送によって各地に送られ、北は北海道、南は九州にまで作品が行き渡っています。

室町時代以降もそうした事情は変わりませんでした。しかし、平安時代から鎌倉末期頃までの作品には、見るべき佳作が多いと思われます。

③【越前】越前は主として、大小の壷・甕などを焼いており、技術的には常滑の作品に良く似ているので、常滑の製品に学びつつ成長した焼

◎「伊万里について」の前号からの続編です。

***　***　***　***

文様は地を多分に残し、花鳥・鳳凰・鹿・虎などを描いていますが、描線は起頭があり細く鋭く、彩釉は精選され、殊に赤は鮮麗で、温雅瀟洒な独特の趣を作っています。その優れたものは、初代の晩年から5代頃、即ち元禄頃までの間に作られたと思われます。またこれらとは、まったくゆきかたを異にし、器物全体を図案文様で飾り、「元禄八乙亥柿」「元禄12年柿」等と銘のあるものがあります。これは六代の後見をした渋右衛門が柿右衛門窯の衰微の折から、柿右衛門窯の伝統を基調に当時盛況した古伊万里・鍋島の絵付の長所を採り入れ、創製したものといわれています。

なお、柿右衛門について特記すべき事は、柿右衛門の色絵磁器は、早くも正保年間（1644-47）ヨーロッパに輸出され、当時まだ磁器の作られていなかったかの地で非常に喜ばれ、寛文年間（1661-72）、3代の時代には最も盛んに輸出されたといわれています。

また、当時イギリス・フランス・オランダ・ドイツなどの製陶工場で柿右衛門の写しが作られ、中国の景徳鎮でも焼かれ、中には、素地を景徳鎮で作り、イギリスやオランダで上絵付を施した珍しいものもあるということです。

この様に、柿右衛門が早くから世界の陶磁界に影響を与えているのは、大いに注目されます。柿右衛門の色絵の技は、いわゆる古伊万里によって庶民の好みを反映した絢爛たる色絵磁器を現出しましたが、その技を採り入れ、精巧の限りを尽くし、色絵磁器の優作を焼出したのは鍋島藩窯です。鍋島藩窯も、そのはじめは、磁器創始に次いで勃興した諸窯の中から生まれました。

2代藩主勝茂は、1628年（寛永5）その当時いくつかあった磁器窯のうち岩谷川内窯を藩窯に指定し、精良な器の焼出を計りました。のち1630年（寛永7）、藩窯として初めに焼いたものは、出土磁片から見て、明末染付を手本に日本風の意匠を加味した食器類であったと推察されます。中に後の鍋島焼きの一つ特色となった櫛高台の萌芽

き物と考えられていますが、当たらずとも遠くはないと思います。

④【信楽】信楽を語るときにまず目に浮かぶのは、あの火色の美しいザックリした肌の大壺でしょう。

最近、六古窯の大壺は、現代人の郷愁をそそって近年特に人気を高めていますが、中でも信楽大壺は日本人好みの爽やか造形美に富んでいて魅力抜群、絶賛を博しています。やはり他の六古窯と同様に甕・壺・擂鉢などが主たる物として生産されていました。

遺品の中でも最も多く克つ感傷的にも興味の深いのは壺の類だと思います。その中でも大壺と「蹲る」と言われているやや小ぶりの壺が多いです。私の知人の祖父から聞いた話ですが、戦前はあまり大壺の類は評価されて無く、今だったら何百万円もする様な大壺が農家の庭先に転がっていたらしいのです。

しかし、その美を見出したのは皆さんもよくご存知の北大路魯山人です。魯山人はよく古い信楽を写していますが、今では古い信楽よりも魯山人の信楽の方が値段が高いという皮肉な現象も起きています。

⑤【丹波】京都府の北部山岳地帯を占める丹波地方の今田町にある丹波古窯で作られた作品です。平安時代末期から鎌倉時代初期に始められ、現在まで焼き継がれてきた物です。僕は、京都に居たせいか丹波の作家を応援しています。（と言っても１人ですが…）

⑥【備前】備前の魅力は土そのままの無釉焼き締めの土味の魅力であり、自然窯変の不思議な美しさがあるからです。

それを一言で言えば備前焼は自然素朴な焼き物であり、それらを「侘（わび）」又は「寂（さび）」とも言いますが、我々日本人の心に何かピッタリ来る物があるからでしょう。備前は伊部焼きとも言います。開窯以来千年の間、岡山県（備前国）備前市伊部で焼き継がれてきた焼き物です。

初め、壺・甕・擂鉢・徳利等を多産し一部は瀬戸内海の船便を利用して広く日本列島の各地に販路を求めています。尚、室町時代以降茶道が勃興するに従い、水指・花入・茶碗・茶入・建水等の茶道具が民具と共に多産され、今日に至っています。

簡単ですが、六古窯についてお話ししましたが、本当の魅力はこの文章を読んだだけでは分からないと思います。皆さんも機会が有れば是非手にとって重さを味わい、中世に思いを馳せてみるのも一考かと思います。

話が少々堅苦しくなってしまいましたが、次回は骨董品に興味が出るような話をしたいと思います。

【前ページ「伊万里について」の続き】

とも言える粗略な櫛高台も見られますが、青磁はまだ欠陥の多いものであったようです。ついで寛文初年、窯を南川原柿右衛門窯の近くに移しました。窯跡と見られる所からの出土磁片、染付や青磁を見ると、前窯の時より遙かに進歩し、作調・文様・技法に鍋島の特色が形作られており、染付の線描の上に上絵の彩釉を施す、後の鍋島独特の絵付技法もはじめられています。

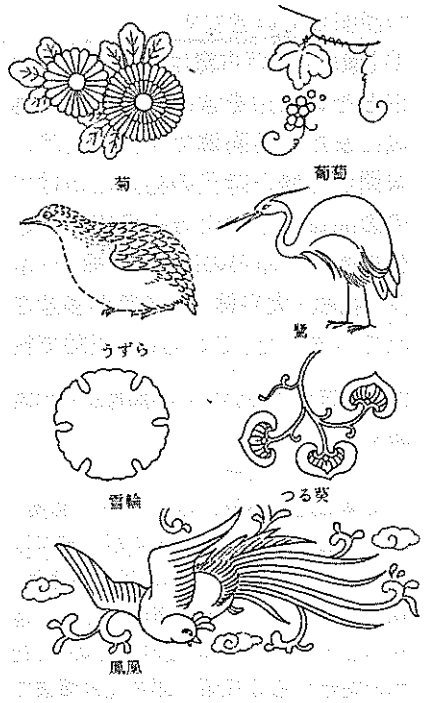
1667年（延宝３）には、大河内山に藩窯を移し、いよいよ最盛期を迎え見事な色鍋島を大成したのです。製品は、藩の用品、幕府諸大名への贈与品、注文品などがあります。製作に当たっては、原料は泉山の最良の石を用い、顔料・釉薬は厳選し、成形・絵付・焼製など、それぞれに吟味を尽くし、我が国で最も精巧な磁器を作り上げました。

鍋島の製品の内で青磁は、染付と青磁の組み合わせがおもしろく、その染付は呉須の色が地味で落ち着いた色調ながら鮮明であり、地肌ともよくマッチして美しいのですが、なんといっても優れているのは色絵磁器です。色絵磁器で最も多いのは、皿でその高台は一般の皿より大きく高く、皿の内面は緩やかな曲面を保つように成形され、それらは皿の大小によって一定の規格が守られています。文様は、花鳥・草木・禽獣から花筏・宝尺・花籠、或いは、更紗文様・幾何学模様などがあります。描線は大細、線のつなぎ目のない流暢なもので、下絵の呉須の薄い線の上に施釉し、本焼後その上に彩画をしています。

また、伊万里のように多彩・金銀彩にはせず、赤・黄・緑の三色です。裏絵は、七宝つなぎ・牡丹唐草が多く、高台は、櫛手・七宝つなぎなどを描いています。櫛高台は細い線で櫛目の輪郭を正しく描き、その中を薄い呉須で塗りつぶしていますが、一点一画をおろそかにせぬ厳正なものです。

色鍋島は、中国清朝の雍正（1723-35）年間の精巧な磁器、豆彩に習うところがあったとも見られていますが、豆彩は明代成化（1465-87）のころ行われ、のち清朝になって盛んに焼かれたもので、その透明度の高い純白の素地に淡い緑を主張した彩色は、気品に富み、鍋島で好みそうなものです。

これら優れたものが作られた藩窯の最盛期は元禄から享保にかけてであり、以後明治４年の廃藩置県で藩窯が廃されるまで、この器形・文様を踏破して



きました。色鍋島は、柿右衛門・古九谷と並んで我が国色絵磁器の代表をなしますが、その徹底した精巧な製作ぶりは他に見ないものとして、特異な存在です。

【次号へ続く】

「自転車乗りの独り言」

河内　潔

自転車に乗っていると社会のいろいろな面が見える。勿論、散歩のように周囲を細かく観察することはできないものの、自動車などでの移動に較べると周囲の事柄に眼が届く。

歩く場合は電車やバスなどと組み合わせる移動手段のため、公共の交通機関を使った時間は途中の景色については眼にできないことが多い。地下鉄や満員電車での通勤であれば、とても周囲の景色に気を配るどころではないだろう。

自転車に乗っていて気持ちのよい季節は無論春と秋だが、その期間はできるだけ自転車に乗るようにしている。自転車に乗らない人達には判らない、自転車に乗って動ける「幸せ」もある。

長時間の仕事のあと、自転車で坂道を登って帰る時はきついと感じる時もあるが、総じて自転車を移動手段として使える「贅沢さ」はなかなか手放せない。

「会社人間」であれば、特に営業などを担当していれば、背広にネクタイで（時折そのような格好で自転車通勤している人を見かける）は自転車には向かない。この自転車通勤というのは自宅から駅までが遠いので、駅と自宅との往復手段として自転車を使っている人のことではない。あくまでも自宅から会社までの移動手段として自転車を使っている人のことを云うのである。

背広にネクタイに自転車用のヘルメットと、ズボンが擦まないように裾にバンドをして自転車に乗っている人達が時折いる。さすがに真夏の季節には見ないが、汗をかかないような時期にそのような人達を見かける。別称で「通勤バイカー」は一般的に言ってカジュアルな服装の人間が多い。

同じ自転車乗りでも、アウトドア派とシティドライブ派とがいるようだ。

勿論、それぞれのライフスタイルや職業によるが、アウトドア派の場合の多くは、週末や休日などに自転車を郊外とか山道とかで乗り回すタイプが多いのではないだろうか。

シティドライブ派は普通の生活の移動の「足」としているタイプである。普通の生活も、休みなども両方という特殊な「自転車乗り」もいるだろうが、一般的にはどちらかのタイプに分けられる。

同じ自転車乗りでも、何故あんなにすっ飛ばして走っていくのかと思うほどのスピードを出して人の迷惑も気にする風もなく追い越して行く人もいる。体力に自信のある若い人達の自転車乗りであろう。

また逆に、止まりそうなスピードでだらだらと走る自転車乗りもいる。主におじいさんやおばちゃんバイカーである。困るのは、追い越そうと思っても右へ左へとフラフラして追い越させないことである。これは自転車乗りだけではなく、歩行者にも右へ左へとフラフラする人がいる。酔っ払いは別だが、道路は自分以外には誰も使わないと信じているような歩きぶりである。

それと、オバタリアンと呼ばれる怪物は、自分たちの話に夢中になって、道路の真ん中で立ち話を続けていることがある。広い道幅ならばいいが、他の歩行者も通れなくなるようなところでも平気でブロックしたまま喋っている光景を時々眼にする。そこを通りたいので、声を掛けるとものすごい形相で睨みつけるのがこの怪物の特徴である。

オジタリアンという（語彙があるかどうか不明だが）怪物も引けをとらずに他人の迷惑を関知することなく占領していることもある。

他方、若い人達でついつい何人かで並んで歩いているためや誰かを待っていて、道路や歩道をブロックした形になってしまうようなことがある。こちらが近づいているのを知った者が、仲間に知らせて道を空けてくれて、一言「ご免なさい」と謝ってくれることがある。このような時は日本の将来は暗くないと思うことがある。

このような素直な若い人達が多くなれば、日本の社会も楽しいものとなるのだろうが、時折眼にするが道路を平気でごみ箱がわりにする若者がいることである。必ずしも若者ばかりではなく、オジンやオバンでも物を道路に捨てて平気な人達がいる。

もっと信じられないことは、火のついたままのタバコを捨てて行くことである。風の強いであろうと、平気でポイッと捨てたまま行ってしまう若者を時々眼にする。

われわれはスカウト時代に火の始末を徹底的に仕込まれたことから、火のついたままのタバコを平気で捨てる感覚が判らない。

確かに昔はタバコの吸い殻を路上に捨てるのが普通であった。しかし、公共の場である道路をごみ箱がわりにするということは何時の頃かは不明だが行わないようにしようと呼びかけがあったはずで、確か軽犯罪法に触れるはずである。

百歩譲って、タバコを路上に捨てるにしても、火だけは踏みつぶして消すぐらのことはしなければならないだろう。路上に吸い殻を捨てるとしても踏みつぶして火を消すのは昔でも当たり前のことであった。その当り前のことがされない時代に何故なったのだろうか。

ただ、一方でそのような若者ではない人達もいる。多分、多くの若い人達はまだ自己中心的な生活態度ではないと思われる。大部分の人達がそれぞれ自己中心的な人達であれば、この日本社会は支離滅裂な社会になってしまうからである。

コンピュータで善人とちょっと善人、ちょっと悪人と悪人を作ってシュミレーションをすると、最初は悪人とちょっと悪人がその世の中の大部分を占める。殆ど善人とちょっと善人が絶滅するように思われるところまで少なくなるが、徐々に善人とちょっと善人が増えてきて悪人やちょっと悪人がかなり少なくなって社会が安定した形を取る。

この場合の善人は何をされても許すだけ、ちょっと善人は裏切りには仕返しをする、ちょっと悪人は裏切りを時々する。悪人は裏切ってばかりいるという性格を与えている。つまり、ここで学ばなければならないのは、裏切りには制裁（つまり仕返し）を加えることである。それと、裏切りが大半の社会は成立しないということである。ちょっと悪人と悪人だけが大半を占める社会は裏切りを警戒したり、裏切ることにエネルギーが浪費され、お互いを傷つけ合うだけの社会で、結果としてちょっと悪人と悪人が減少していく。

正確な比率はちょっと思い出せないが、ちょっと善人が大半を占め、ちょっと悪人が次に多く、善人がそれにつづいての比率を占め、最も少ないのが悪人となる。

このシュミレーションは数学的なもので、確かに単純なものでしかない。人間は十人十色と言うほどにいろいろな人間がいるが、結局、基本的に上述のような４つの性格分類に集約できるような気がする。そこで、スカウトとしてはこの中の善人でいるべきなのだろうか。当然ちょっと悪人、悪人であってはならないが、ただ裏切られるだけの単なる「善人」であってもならないように思われる。

“そなえよつねに”という標語にこだわるのであれば、裏切りに対しても備えが必要ということである。現実の世界では、一般的な人々の社会習慣や思考形態を逆手に取って詐欺を働くような犯罪者がいるわけで、それに対して警戒しなければならない。

昔は、腕白な子供がいたずらや、ちょっと間違ったこと、あるいは人の迷惑になるような行為をすると近所のおじさんやおばさんがしかりつけたものであった。その子供の顔を知っているとかは関係なく、その子供の行為が誤っていれば、その時に居合わせている大人として「注意」を与えることが広く世間で当り前のことであった。

ところが、いつのまにか近所のおじさんやおばさんが叱るということがなくなってしまったし、昔いなかった「オバタリアン」という怪獣が生み出されたのと無関係ではないだろう。「オジタリアン」も含め周囲の人達の迷惑を省みない自己中心、自分達（彼らは何故か群れる癖があるようだ）中心の言動があり、それは傍若無人な若者達の言動と一致しているような気がする。

いつのころからか、子供たちが傷つくことを極端に恐れる親が多くなった。小学校では鉛筆を削るための小さな刃物の使用が

ノン・フォーマル教育を考える

杉原　正

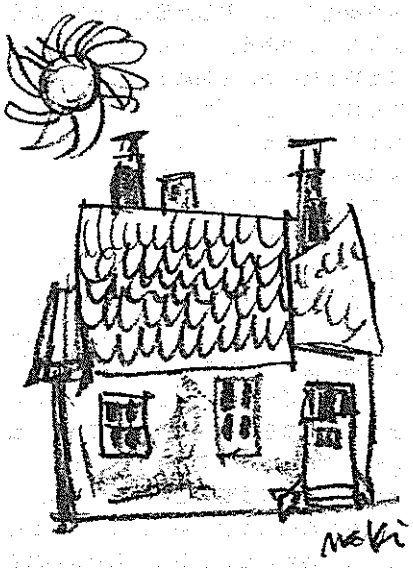
前回<スカウト運動の使命>についてご紹介させていただきましたが、なぜこの時期にとお考えになる方もおられると思います。スカウト運動が隆盛なときは33万人を越える加盟者がおりましたが、10年余りで3分の2の23万人になってしまいました。現在、港第1団も同様で指導者や団委員の方々の努力にも拘わらず減少傾向は続いております。

スカウトにとって楽しいものであり、やり甲斐のあるものになっているか、保護者にとって子どもを育てるために魅力的、かつ有意義なものになっているかが今問われています。そのためにはすかうと教育を正しく理解していただくための工夫や努力は申すまでもなく必要なことであります。

スカウト運動の<目的>や<理念>は明確となっていますが、なかなか理解しにくいと云われています。同時に、新しい世紀を担う青少年の育成にスカウト運動は必要で、かつ有意義なものとして社会に認知していただくためには私たちは何をなすべきか、が大切であります。

そのためには、指導者や関係者がスカウト運動の<使命>を理解し、共有することであります。使命とは<MISSION>であり、いろいろな意味があることを承知しなければなりません。単なる使命という言葉のみに留まることを避けなければなりません。その意味で前号の内容を吟味していただければ嬉しく思います。

新しい世紀を迎えるにあたって、世界中の1億人以上の青少年とそれを支える成人を巻き込んだ活動を展開している世界YMCA同盟、世界YWCA、国際赤十字・赤新月社連盟、ガールスカウト・ガールガイド世界連盟と世界スカウト機構の5大ノン・フォーマル教育組織によって「青少年の教育：21世紀の夜明けにあたっての声明」がまとめられました。



これは、青少年の成長のために、学校における「フォーマル教育」、家庭やメディアにおける「インフォーマル教育」を補完するものが、スカウト運動など青少年団体などによる「ノン・フォーマル教育<Non-formal Education>であると位置づけ、スカウト運動が「教育」を「使命」とする団体であることを明確にした声明であります。

ご承知の通り総理大臣の諮問機関である「教育改革国民会議」が12月に17項目にわたっての提言を提出しました。しかし、残念ながら殆どは学校教育（フォーマル教育）についてであり、ノン・フォーマル教育に関しての提言はありません。

教育を考えるとき、すべてが学校教育に期待され、依存していることに学識者も含め、国民全体の意識の欠如そのものに問題があります。心の深いところの育成を大切にしているスカウト運動が、改めてノンフォーマル教育に大きく拘わっていることを自覚しながら取り組むことが求められています。

*******　訂正とお詫び　*******

前号の杉原さんの「スカウト運動の使命を考える」において、「ノン・フォーマル」を「インフォーマル」と誤って記載してしまいましたので、ここに訂正をお知らせするとともにお詫びいたします。

【前ページからの続き】

禁止され、スカウトのキャンプや通常の訓練でも危ないことをさせないようになっていると聞く。

勿論、人命に関わるような重大な危険については充分な注意が必要だが、人間は小さな誤りから物事を学ぶのではないだろうか。鉛筆を削ることで刃物をどう扱うかを学ぶ、時には指を切ったりで痛い思いをしながら学んでいくのではないだろうか。小さな危険を排除して学ぶ機会を子供たちから取り上げてしまっているような時代となっているのではないだろうか。小さな痛みを経験することで、大きな危険に対する心構えができるのではなかろうか。

無菌の環境で育てれば、確かに健康に育のだが、そのような無菌状態で育てたネズミなどは普通の環境に放り込まれると抵抗力がないためにすぐに病気になって死んでしまうらしい。人間も同じで、あまりにも甘やかした環境で子供を育てると社会に適応できない人格を持ってしまうことから神戸の幼児殺害事件やバスのハイジャックで婦人を刃物で殺害するようなことを起こしてしまうようにも思われる。

不必要に子供を痛めつけるような必要はないが、精神的な意味で抵抗力をつけるだけの「愛の鞭」的なものをもう少し認めるような社会になる必要があるようにも思われる。

それと、教育は全て、躾けも含めて学校に任せるような風潮にも抵抗がある。躾けはそれぞれの家庭の責任であり、それぞれの家庭の品格を、価値基準を自分たちの子供に教えることは、親としての責任であろう。それを他人に任せてしまうというのは無責任でしかない。

スカウト教育も同様で、基本的なことはやはり両親が教え、スカウトのリーダーが子供たちに教えられることは補足的なことだといえよう。

大事なことは産んだからには自分が責任をもって育てるということ。そこで他人に責任を負わせるようなことがあれば、子供もそれを倣うということである。

自分の責任や科を棚に上げて他人を非難・批判する風潮が日本社会に蔓延しているように思われる。スカウト運動というものが正しく広がれば、それなりに住みやすい日本社会になるような気がする。

皆さんもどのように最近の日本を思われるか一筆お寄せ下さい。（了）

ボーイスカウトと私

与謝野　馨

私が長野県の疎開から東京に帰ってきたのは昭和２１年初め、ただちに港区立麻布小学校に入学し、小学校時代５年間を六本木を中心とした町ですごしました。ごく自然に麻布中学に進み、中学一年生の時からボーイスカウト東京四団（現・東京港第一団）に入隊させていただきました。

その当時、私の家は麻布の新竜土町にあって、私をボーイスカウトに誘って入れて下さったのは今田富士雄さんです。

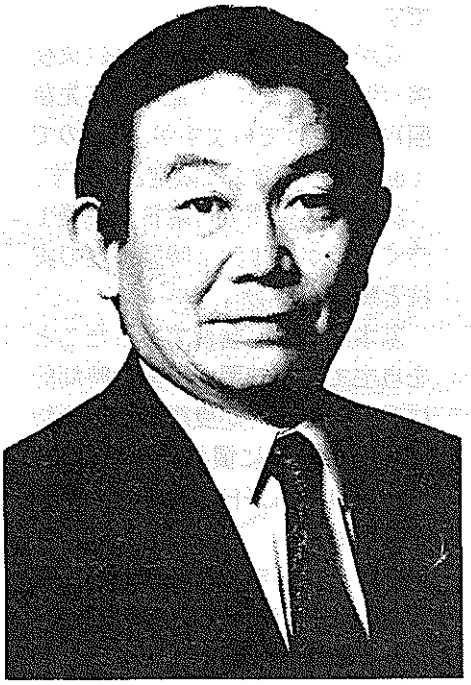
霊南坂というのは今も思い出せばすてきな坂で、そこを登りきった所に霊南坂教会がありました。東京第四団の本部はその霊南坂教会の尖塔の小さな部屋にあり、らせん階段をぐるぐる回ると団室に至るという今にして思えば大変優雅な風景の中にありました。

霊南坂教会には庭もあり、ガールスカウトも存在していて、私にとってそこで過ごした２年間は自分の少年時代の良き想い出であり、良き友達に恵まれた２年間だったと思います。

よく思い出すのは、今田さん、飯田さんが、ウクレレを弾いていた『コロラドの月』という曲です。私を最初にボーイスカウトに誘ってくれた今田さんは、実家は六本木の誠志堂の隣にある小さな和菓子屋さんで、その当時はお父さん、お母さん、お姉さん皆健在で、私はその家によく遊びに行きましたし、今田さんも新竜土町の我が家に遊びに来ていました。

二級スカウトの試験に合格したときの後で、中学三年からは海外に行ってしまいましたのでボーイスカウトの活動はそこで終わりになったのですが、ボーイスカウトの団体生活で学んだ事はその後私の人生にとって大切で貴重な体験となりました。

昭和２６年、２７年、２８年の頃



の話ですから、物も乏しく貧しい日本でしたけれども、今考えるとこの時代は輝いていた。ひとつ一つが大切で、ひとつ一つが貴重に思えた時代だったと思います。

土曜日の午後、霊南坂に通って訓練を受けていましたが、河口湖では夏のキャンプ、蔵王でのジャンボリーへの参加、これほど懐かしい思い出はありません。　河口湖では、風邪気味で頭が痛かった私に誰かがアスピリンをくれてそれがよく効いた事、川に皆で泳ぎに行った事、川の水で冷やしたトマトが塩をつけるとあんなにおいしいものであった事、帰り道重い荷物を背負って長い道を歩いた後友人がくれたドロップの一粒が素晴らしくおいしかった事…等々想い出はつきません。

その当時の写真を友人の一人が数年前に複写して私に送ってくれました。かわいい少年時代の自分の姿を見つけて、こんなよい時代もあったのだなと思いました。

詳しくはわかりませんが、蔵王で開かれたジャンボリーの大会はおそらく戦後初めての大きな大会だったと思います。東京第四団からもたくさんの人が参加し、私も参加して、キャンプファイヤーや集団での生活、少年として感動を覚えたものです。

缶詰の鯨の肉の大和煮はその当時は贅沢品でした。それをおかずにしながら飯盒でたいた御飯のおいしさ、今でも貧しかった時代そのようなことに感動していた自分を懐かしく思うのです。

その他大きなイベントとしては夜間３０キロの走破というのに参加した事があります。こんな事は全て辛いのですが、走破し終わった途端の喜びというのは大きなもので、今の子供たちの教育の中にも、困難を乗り越えた後の喜び、そういう教育があってもいいのではないかと思っています。

昭和５１年衆議院に初当選してからは、都議会議員の平山羊介さんや衆議院議員の桜内義雄先生が熱心だった「ボーイスカウトを支える議員連盟」の一員ともなって陰ながら全国のボーイスカウト活動を支援する側にまわりました。

文部大臣に就任した平成６年・７年には大分県では大きな大会があり、文部大臣としてそこに呼ばれ、挨拶することとなりました。

東京第四団の関係者が現役を退かれてからも、東京都全体のボーイスカウトや全国のボーイスカウトのために役員として汗を流していることを知ってはおりましたが大分に行って驚いたのは第四団出身者が大変大事な役割を皆担っているという事です。

少年時代の友達は勤めに出ている方もおられるし、家業を継いでいる方もおられるし、いろいろな方がいろいろな場所で皆元気にやっておられます。その方々に会うと、私の時代は昭和２０年代に一瞬にして戻り、世の中は貧しかったけれども、あの時代は私の人生にとって黄金時代の想い出に思えてならないのです。

訃　報

スカウト関係での訃報をお知らせします。生前の故人あるいはご家族と親しくされていた方もいらっしゃると思われますのでお知らせします。

●大浜良友さんのご母堂・寿満子さんが昨年11月29日にご逝去されました。享年88歳。

パソコン インターネット 駆け込み寺

霊南坂スカウトクラブでは、今後インターネットがより発展することと、OB・OGでインターネットを利用したいと考えている人達が多く、また基礎を知りたいという方々が多くいることなので、そのような方々へ機会を作ることにしました。

とりあえず、最初はラップトップのコンピュータを用意できる人達に限らせていただきます。ラップトップあるいはノートブック型と呼ばれる携帯型のパソコンをお持ちの方に限らせていただきます。

また、その人達が周囲の友人・知人に教えればネズミ算的に増えることになるので、習ったことを友人などに教える意欲がある人達を対象とします。

とりあえず教える内容は、パソコンの使い方と基礎知識、インターネットの基礎知識、電子メールの基礎知識、キーボードの使い方、ソフトウェアの基礎知識などです。

場所と時間は、河内の店舗（東横線・代官山駅近く。下記の連絡先参照）を予定していますが、狭いので１回あたりを数人に限定とします。

講習は不定期で日曜日の午後１時ぐらいから１回２時間程度の実技と講習。

基本的には、講習で習ったことを自宅で反復練習が可能な時間的に余裕のある方が受講の条件。特にキーボードに慣れるためには、最初のうちは毎日触れることが必要なため。

それと、自宅などで基本的に判らないことが出てきたり、忘れてしまった場合は電話で聞くことが可能です。河内の携帯電話（下記参照）で受けます。但し、仕事中の場合や運転中の場合もあるので、その場合は対応不可です。

パソコンの種類はウインドーズ（DOS/V）でもマックでもどちらもＯＫです。

教えるのはあくまでも基礎的な事柄で、それを基にそこから先は自分で習得することが条件です。勿論、そのためのサポートは行います。

以上のような条件でもパソコンやインターネットについて習いたい方は河内までファックスにて申し込みください。

電子メールをやりとりできるようになることを当面の目標とします。また、ワープロの使い方基礎編と表計算基礎編も希望により教えます。

霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・問合せ等：
（郵便）107-0062　東京都港区南青山7-11-5　日下部　宛
（ﾌｧｯｸｽ）03-3400-0399　（電話）03-3400-0331

会費・ご寄付等：
（郵便）105-0001　東京都港区虎ノ門1-19-5　杉原　宛
（電話／ファックス）03-3501-3998
振込講座番号：霊南坂スカウトクラブ
（郵便局経由）　00160-1-615237

通信・ご希望・ご意見等：
（郵便）150-0021　東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303　河内　宛
（ﾌｧｯｸｽ）03-3464-8276　（電話）090-4919-2941
（E-mail）riverys@fancy.ocn.ne.jp

編集後記

ついに２１世紀になってしまいました。日本経済が不況なのか、このように斑な産業分野だけが景気のよいという形がごく当り前なのか判らなくなっています。

他方、年々海外有名ブランド商品の日本店舗の売り上げは伸びているとのこと。

いずれにしろ、何らかの付加価値がついた「ものづくり」が社会の基礎のはずでしょう。それを忘れて土地を転がしたり、株を転がすようなマネーゲームをしたことでバブルを招いた反省も大事でしょう。

何事も「温故知新」で、もう一度、基本を見直してみることや基本に立ち返ることが、新たなアイディアに繋がるかもしれません。この際、次世紀に残るものをつくることを考えてみてはどうでしょうか？

ＯＢ・ＯＧの消息調査

入会していない霊南坂スカウトのＯＢ・ＯＧの消息をお知らせください。卒業生名簿などで判るような場合もありますので、所在不明の方々の住所などが判明した場合はお知らせください。

そろそろ新しい名簿を作成する時期となりました。そのためにもできるだけ多くの方々の消息について承知したいので、霊南坂スカウトであった人達（同年、先輩、後輩を問いません）の消息が判明した時はご気軽にご連絡ください。（河内宛）

連絡方法は左記のファックスか郵送か電子メール（下記）アドレスに送付ください。

連絡先：　E-mail Address
riverys@fancy.ocn. ne. jp